**「さまざまな場所でのシュリー・クリシュナ」**

2021年8月15日

逗子例会

シュリー・クリシュナ生誕祝賀会　午後の部

スワーミー・メーダサーナンダによる講話

於・逗子本館よりライブストリーミング

宗教的にインドは、多くの霊的指導者と数名の神の化身が生まれた(あらわれた)という点で非常にユニークです。最も有名なのは、シュリー・ラーマ、シュリー・クリシュナ、ブッダ・デーヴァのお三方です。「神の化身」のサンスクリット語は「アヴァターラ」で、「地上に降臨した神」、「人間の形をした神聖な特別なあらわれ」を意味します。神聖とは「聖なる特性」を意味します。聖なる特性とは、放棄、真実、純粋さ、思いやり、普遍的な愛、神への愛などです。 これらの神の特性が最大に表れている人をアヴァターラ、つまり神の化身と呼びます。インドでお生まれになった方だけでなく、他の場所のお生まれでも同じです。例えばイスラエルで生誕されたナザレのイエスなど、特別な神の特性をもった人をアヴァターラと言います。

**宗教的信念は成長し続ける**

すべてのアヴァターラの生涯を客観的に比較してみると、神の化身の中で最も波乱に満ちた人生はシュリー・クリシュナの生涯であると結論づけるべきでしょう。シュリー・クリシュナの生涯は、深遠、ドラマチックかつ多次元的です。シュリー・クリシュナは、インドの宗教生活だけでなく、社会的、文化的生活のあらゆる面に深く影響を与えました。

神への信仰がなかったり、神を信じず、唯物論的哲学を信じる人は多いです。超自然的な力はあるかもしれないが、それを知ることはできないとする不可知論者も多くいます。興味深いことに、このような人々や快楽主義の誘惑にもかかわらず、宗教は衰退せず、それどころか拡大しています。宗教は世界中で広がっているのです。シュリー・クリシュナは遅くとも3500年前に生誕なさいましたが、今ではとてもグローバルな存在です。シュリー・クリシュナはインドのへんぴな村の出身ですが、この3500年間、忘れられたことはなく、唯物論、無神論、快楽主義の真只中でますます普遍的でグローバルに広がりました。それは驚くべき事実です。

そのような化身や預言者と、力づくで群衆の喝采と崇拝をもぎとった偉大な英雄たちとを比べてみてください。アレクサンダーはどこにいますか？　ソロモン王はどこです?　カール大帝、ナポレオン、ヒトラーはどこですか？　彼らは今、歴史の１ページにすぎませんが、神の化身は生き続け、何百万人以上の人々にインスピレーションを与え続けています。

**非常に危険な誕生**

シュリー・クリシュナは125年間生きたと言われています。彼は牢獄(ダンジョン)で貴族の地位のデーヴァキーとヴァスデーヴァの間に生まれました。赤子クリシュナは、ゴクラのヤムナー川の対岸に住む牛飼いの王ナンダとヤショーダーの間に生まれた女の赤ちゃんと取り替えられて物語は進みます。ナンダはヴァスデーヴァの友人でした。デーヴァキーとヴァスデーヴァは投獄されていました。なぜなら、デーヴァキーの兄カンサは残忍で邪悪な暴君で、父親のマトゥラ王ウグラセナを退陣させたのですが、自らの妹であるデーヴァキーとヴァスデーヴァに生まれる8番目の男の子がカンサを殺す、と言う神の声を聞いたので、夫婦を投獄したのです。後に、8番目の子供であるシュリー・クリシュナがゴクラで育てられていると知ると、カンサはその子供を殺すために多くの悪魔を送りました。悪魔たちは皆失敗し、神の神通力の助けを用いた神の幼子によって殺されました。

**ヴリンダーヴァンでのエピソード**

幼子シュリー・クリシュナ(ゴパーラ)は非常にやんちゃでいたずらで、ヤショーダーと近所の女性に多くのいたずらをして楽しみました。ナンダや隣人たちの仕事は酪農でした。ゴパーラはバターや乳製品を盗むのが大好きで、それらが入っている土製の壺を壊すこともありました。ゴパーラは盗ったものを自分で食べるだけでなく、多くの友人やサルとまで分け合いました。近所の女性がクリシュナの行動についてヤショーダーに不平を言うと、ヤショーダーは「それならどうしてご自分でお叱りにならなかったの？」と女性たちに尋ねました。女性たちは「だってクリシュナ坊やを叱ろうとすると、坊やが何をしでかしたのか忘れるくらいの甘い笑顔で微笑むのですもの」と答えました。女性たちは怒ったり迷惑しているように見せかけましたが、実際には我が子以上に神の子クリシュナを愛していたので、クリシュナのいたずらを喜んで受け入れていました。

ある日、何らかの理由で幼いクリシュナが土を食べているのを見た友達はそれを伝えるためにヤショーダーのもとに駆けつけました。ヤショーダーはクリシュナに「美味しいものがたくさんあるのにどうして土を食べているの」と言って怒りました。怒られたクリシュナが「ボク、食べてないよ」と言ったので、ヤショーダーはクリシュナに「口を開けて見せなさい」と命じました。クリシュナが口を開くと、ヤショーダーは自分を含む宇宙全体が口の中に飲み込まれているのを見ました。

**シュリー・クリシュナは純粋な愛を楽しむ**

ヴリンダーヴァンのエピソードは、クリシュナの生活の神の側面と人間の側面という両面を描いた物語でいっぱいです。覚えておくべき大事なことを言います。超自然的な力を目の当たりにしたとき、その人に対する私たちの態度はどうなるでしょうか。ある種の畏敬の念や尊敬の気持ちをもちますか？　ヤショーダー、ナンダ、友達や近所の村人はクリシュナの超自然的な力の数々の出来事を目撃しました。それなのになぜ彼らはシュリー・クリシュナの超自然的で神聖な側面を心に留めておくことができなかったのでしょうか?　もしもヤショーダーやナンダ、友人や隣人がクリシュナの超自然的な力を見てクリシュナを神と考えたなら、彼らはクリシュナのことを我が子、友、隣人として愛することはできなかったはずです。そうすればクリシュナはヴリンダーヴァンの人々の彼への純粋な愛を楽しむことができなかった。それが答えです。

クリシュナご自身は、ゴクラのゴーパー（牛飼いの男性）やゴーピー（牛飼いの女性）たちの純粋な愛を味わいたかったのです。だから、彼らはある瞬間にはクリシュナの神の力を目撃し、次の瞬間にはクリシュナの計り知れない力でクリシュナの真の姿を忘れさせられました。これはバーガヴァタムに描かれているクリシュナの生涯の非常に興味深い一面です。

このことは、神に対する私たちの愛と、子供時代のクリシュナに対する周りの人々の愛を比較することで、より深く理解することができます。私たちの神への愛には、尊敬や畏敬の念、距離感があり、何らかを期待しています。しかし、クリシュナに対する周りの人々の愛には、そのような尊敬や畏敬の念もなければ期待もせず、距離もありません。あるのは、混じりけのない純粋な愛だけです。サンスクリット語では「アビャビチャリーニ・バクティ」または「プレマ・バクティ」と言います。純粋な愛には、尊敬も畏敬の念も隔たりも期待もありません、ただ、愛のために愛するのです。私たちは、両親の子供への愛、夫婦の互いへの愛など、そこらじゅうに多くの「愛」を見ます。しかし、「愛のための愛」をたったひとつでも目にしたことがありますか？

本当にこのシュリー・クリシュナに対するゴーパー、ゴーピーたちの愛の性質、愛のための愛、混じりけのない純粋な愛、つまりプレマ・バクティは、きわめてまれな例なのです。「アミ・ムクティ・ディテ・カトール・ナイ、バクティ・ディテ・カトール・ホイ」という歌があります。　「主はおっしゃる『私は誰かが解脱を求めて祈るなら与えるが、純粋な信仰（愛）を求められても与えるのをためらう』」というのがその歌詞の意味です。つまり、純粋な愛とはそれほど稀有なことであり、最も敬虔な信者の中でも、このタイプの愛はまれであるということです。インドの聖典でそれほどの純粋な愛の記述がみられるのは、ヴリンダーヴァンでのクリシュナに対するゴーピーとゴーパーたちの純粋な愛だけです。それゆえに創造神ブラフマーは言いました。「クリシュナへの純粋な愛を持つゴーピーたちの塵に触れるために、私はヴリンダーヴァンの草の葉として生まれたい」

また、ラーサリラと呼ばれるゴーピーたちとクリシュナの踊りがあります。このイベントはしばしば誤解されたり間違った解釈がされています。ゴーピーたちは非常に純粋で身体意識がまったくなかったので、宇宙の主と踊ることで神聖な喜びを楽しむ幸運に恵まれました。クリシュナ、すなわち至高者は、アーナンダ(喜び)つまり絶対の至福を味わいたくて、主ご自身からゴーピーを創り出し、彼女たちと踊ったり遊んだりしたのです。これがラーサリラのより深い意味です。

**クリシュナ、カンサをやっつける**

青年となったクリシュナと兄のバララーマはマトゥラに行き、そこで臣民を恐怖に陥れた邪悪な王カンサを予言通りに殺しました。クリシュナはその後、両親のデーヴァキーとヴァスデーヴァを牢獄から解放しました。また、邪悪な息子カンサに退位させられていた元王ウグラセナが即位しました。それからクリシュナは大事な訓練と教育を受けるために、サンディパニという聖典の師のもとに行きました。邪悪な王カンサには二人の妻がいましたが、今は未亡人となりました。そのうち一人の未亡人の兄弟ジャラーサンダは、クリシュナがカンサを殺したことを知り、マトゥラを強力な軍隊で襲撃しました。1７、18回ジャラーサンダはマトゥラを強力に襲撃しましたが、毎回クリシュナとバララーマに撃退されました。

**クリシュナ、ドワルカ王国建国**

クリシュナはインド西部に新しい王国を作りたいと思い、神通力を使ってドワラカに王国を作りました。そこはジャラーサンダの度重なる攻撃から遠く離れているので、その影響を受けない島でした。

クリシュナはすべての民とともにドワラカに移動し、何年も統治しました。その領土のほとんどは現在水没していますが、宮殿だけがまだ残っています。ジャラーサンダは後に、5人のパンダヴァ兄弟のひとりであるビーマによってレスリングの死闘で殺されました。

**クルクシェートラの戦い**

有名なクルクシェートラ戦争は、パンダヴァ兄弟とカウラヴァ兄弟のいとこ同士の家族間の戦いでした。ハスティナプルの盲目の王ドリタラ－シュトラの長男、つまりカウラヴァ兄弟の長男ドゥルヨーダナはクル王国の王でしたが、カンサ同様、暴力で王国を支配していました。パンダヴァ兄弟はハスティナプルにあるその王国を治める同等の権利を持っていたにもかかわらず、何度交渉してもドゥルヨーダナはパンダヴァの正当な主張を拒否しました。最後にドゥルヨーダナは、王国の所有権は二つの家族間の戦争で決定する、と宣言しました。

両当事者はシュリー・クリシュナの助けを求めました。というのは、クリシュナご自身が当時の最高の戦士であったことと、ナーラーヤニ・セナと呼ばれるご自身の強力な軍隊を持っていたからです。ちなみに、クリシュナはパンダヴァ兄弟の叔母の息子でした。それでもクリシュナは両者に平等に二つの選択肢を与えました。クリシュナの軍隊を使用する、または、クリシュナご自身を味方につける、という選択肢です。もしクリシュナを選んでも、クリシュナは戦わない助言者です。一方で軍隊を選んだ場合、軍隊は戦います。ドゥリョーダナはクリシュナの大きくて強力な軍隊を選び、パンダヴァ兄弟の代表アルジュナは戦いの時に御者になってもらうためにシュリー・クリシュナを選びました。戦争は数日間続き、多くの死者がでましたが、パンダヴァ兄弟の勝利で終わりました。

この戦争の直前に、アルジュナは戦場を見渡し、弓術の師や親戚や友人と戦って殺すことはできないと言いました。その時、シュリー・クリシュナがアルジュナに人生のアドバイスを与えたのですが、それがバガヴァッド・ギーターの内容です。バガヴァッド・ギーターはクルクシェートラ戦争がまさしく始まろうとしているときが舞台となっており、節の中にシュリー・クリシュナの永遠の教えが満ちています。

**クリシュナの理想的なすがた**

だから、シュリー・クリシュナの生涯にまつわる場所のリストにクルクシェートラを足しましょう。まとめると、彼の誕生はマトゥラで、ゴクラへ逃れ、ヴリンダーヴァンへ移り、カンサを殺して両親を解放するためにマトゥラに戻り、ドワラカ王国を作って治め、そしてハスティナプルに行き、クルクシェートラでの大戦をしました。これらの場所のうち二か所がシュリー・クリシュナの生涯の中で最も有名となりました。それはヴリンダーヴァンのクリシュナとクルクシェートラのクリシュナです。

ここで質問です。理想として従うべきなのはどちらのクリシュナでしょうか？　ヴリンダーヴァンのクリシュナでしょうか？　それともクルクシェートラのクリシュナでしょうか？　覚えておいてください、バーガヴァタムではヴリンダーヴァンのとても詳しい描写を読むことができます。一方、バガヴァッド・ギーターでは、クリシュナの哲学と教えを非常に詳しく知ることができます。つまり、ギーターでシュリー・クリシュナのひとつの理想的側面を描き、バーガヴァタムではもうひとつの理想的側面をあらわしているのです。ヴリンダーヴァンのクリシュナの話では、神と神の信者であるゴーパーとゴーピーとの純粋な愛の理想が語られ、クルクシェートラのクリシュナからは、無執着で義務をする、つまりカルマ・ヨーガの実践が大事である、とうメッセージを受け取ります。バーガヴァタムのヴリンダーヴァンに私たちはさまざまな形の神と神の信者の互いの愛の悦びを見ます。ですが、ギーターでは義務をせよ、と述べられています。アルジュナは自分の義務をしたくないと言ったので、シュリー・クリシュナはアルジュナに「弱々しくなってはいけない！　結果に執着することなく自分の義務を果たしなさい！　それと同時に常に主を思い出しなさい」と言いました。

［マハーラージはその後、参加者にどちらの理想を選択するか尋ね、さらにその選択の理由を尋ねられた］

**ヴリンダーヴァンの理想はほぼ実現できない**

はっきりさせておきたい点は、ヴリンダーヴァンでの神への純粋な愛という理想は、ごくごくまれなことだ、ということです。多くの人がそれを望むかもしれませんが、それに恵まれるのはごく少数です。「解脱を与えてもいいが、純粋な愛を与えるのはいやだ」と主がおっしゃった歌の歌詞を思い出してください。なぜ神に対する純粋な愛を与えたくないかというと、神への純粋な愛を持つ人は、神をつかんで離しません。だから神はその愛に縛られます。しかし神は縛られたくないのです。神は、シンプルな心のゴーパーやゴーピーたちに縛られました、彼らの無限の愛、交ざり物のない純粋な神への愛に縛られたのです。 アルジュナにではなく。このことが、神が純粋な愛を与えたくない理由です。

実際は、自分のエゴ意識を完全に取り除き、身体と心が清らかとなり、神だけが唯一の愛の対象となり、自分のすべての存在を神に委ねたときに初めて、私たちは信者のクリシュナへの愛とクリシュナの彼らに対する愛を理解することができます。しかしそれでも、とくに若いミルクメイドたちと主の聖なる遊びついて全く間違って理解する可能性があります。 私たちの今の身体と心の状態では、ヴリンダーヴァンのクリシュナを手本にすることは不可能です。

つまり、ヴリンダーヴァンの愛の理想は、その資質のない私たちには到達できないのです。しかし、私たちは皆、バガヴァッド・ギーターの教えを実践し、クルクシェートラのシュリー・クリシュナを私たちの理想とし、霊性の生活を豊かにすることはできます。これは到達することができます！　これは実行ができます！　だからこそスワーミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワーミージー）は次のようにおっしゃいました。「私たちは今、ヴリンダーヴァンのクリシュナのことを詳しく語るよりも、むしろクルクシェートラのシュリー・クリシュナを理想として、集中したほうがいい」